

[資料提供]

月 日	担当課	電話	担当者
令和8年5月8日(金)	県立博物館	668-3636	内藤芳香(自然担当・学芸員)

ヒメオオイワボタンの保全活動について

1. 概要

ヒメオオイワボタンは大陸に自生するオオイワボタンの変種で、徳島県から初めて発見され新変種として記載された。発見当時から個体数は多くなかったが、近年ではニホンジカによる食害の影響で個体数の減少が急速に進んでおり、放置すれば数年のうちに絶滅してしまう危険性がある。

この状況を現地で目の当たりにした植物写真家のいがりまさし氏と東北大学牧雅之教授が中心となって、徳島大学山城考准教授と徳島県立博物館内藤芳香学芸員とともに、2025年にヒメオオイワボタン保全連絡協議会を立ち上げ、徳島県の貴重な自然の保全に取り組んでいくところであり、今回5月8日(金)および9日(土)に現地調査を行うこととなった。

2. ヒメオオイワボタンとは

- ・ヒメオオイワボタン *Chrysosplenium pseudofauriei* var. *nipponense* Wakab.はユキノシタ科ネコノメソウ属の植物で、現在は徳島県にのみ分布するとされている。
- ・基本種のオオイワボタンと比較して、ロゼット葉が円形に近い広楕円形で小さく、花の萼が囊状に著しく膨れるという特徴がある。
- ・4月から5月に開花する。花のない時期の識別は困難である。
- ・個体数が非常に少なく、徳島県レッドリストではごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いとされる、「絶滅危惧IA類」に指定されている希少植物。

3. 今後の活動

① 未知の残存集団を発見する調査

植物の標本記録では、現在ヒメオオイワボタンが生育している場所以外でも生育の記録があるため、周辺地域を網羅的に調査し未知の残存集団を発見する。

② 生育域内移植保全

過去生育記録がある場所に防護柵を設置し、周辺の残っている個体を移植して保全を行う。

③ 生育域外保全

リスク分散のために、植物園などの生育地以外の場所で保全を試みる。



写真1 ヒメオオイワボタンの花 (いがりまさし氏写真提供)